回覧

地域の竜と成り往かむ

Tenryu high school

学校便り
11 月号

天竜高校 HP

★第 14 回天竜文学賞が決定しました。★

10 月 11 日（火）本校図書室にて、第 14 回天竜文学賞最終選考会が行われました。二俣校舎、春野校舎それぞれから選考委員代表者 14 名（二俣校舎８名、春野校舎６名）が参加し、2 時間にも及ぶ話し合いの末、受賞作を選出しました。

今年度の候補作は受賞作を含めた以下４作品。
『安壇美緒』　著
『流星コーリング』河邊徹　著
『深夜０時の司書見習い』近江泉美　著
『僕たちの幕が上がる』辻村七子　著

選考委員（春野７名・二俣 32 名、総勢 39 名）の生徒が夏休み期間中にこの４作品を読み、各校舎での選考会を経て、この日の話し合いを迎えました。

受賞作となった「金木犀とメテオラ」に対し選考委員は「中学生から高校生に成長する過程で、周囲の人と自分を比較し、悩みや焦り、不安に思う気持ちは皆同じなのだと気づかされた」、「優等生といわれる生徒も、人知れず家庭環境などにもがき、苦しみながら必死に生きている姿に勇気をもらった」など、場面や悩みは様々だが、登場人物の心情に深く共感していました。最終的には、天竜文学賞の選考基準である「高校生が高校生に薦めたい」というスローガンのもと、「この作品を通して“一歩前に踏み出す勇気”をみんなにも伝えたい」という意見が決め手となり、受賞作決定に至りました。

生徒は「朝読書」を通じてこの作品を味わうことになります。選考委員の想いを本校生徒全員が感じ取ってくれることを切に願います。

★　静岡文化芸術大学　舩戸修一教授　講演会が行われました。★

総合学科１年次生の「産業社会と人間」において、静岡文化芸術大学文化政策学部の舩戸修一教授による「人口が減少すると集落は消滅するのか？」という題で講演会を実施しました。

本校の天竜区も高齢化率が高くなり、人口が減少していることが大きな課題であると考えられ、日本の抱える課題の先進地域だとも言われています。

舩戸教授は人口が減り、「地域が廃れる」と発言することで人は地域を離れるようになり、追従するように他の住民たちもが地域から離れていくことになると言います。これは「予言の自己成就」であると考えます。逆に地域の発展や、夢、希望の持てる言葉を発言すれば、地域は発展すると考えます。

最後に生徒たち対し、新しい時代に対応するためしっかりと勉強することが大事であるとエールを送っていいただきました。

★体育大会が行われました★

11 月 3 日（水）校内体育大会が行われました。生徒たちは真剣に競技に取り組み、各種目ではクラス一丸となって盛り上がりました。集団競技である長縄や台風の目では、メンバーが心を一つにして挑む様子がみられ、そして、最終種目である男女混合リレーでは大いに盛り上がりを見せました。また、裏方である運営の仕事も各部活動において分担され、主体的に行われ大会を成功に導くことに貢献しました。

★部活動報告★

〔バトミントン部〕　**新人戦が行われました。県大会出場まであと一歩で届かず・・・**

9 月 17 日、19 日、23 日、10 月 1 日と新人バドミントン西部地区予選会が行われました。

〔２年男子ダブルス　ベスト 16〕

太田波瑠斗・近藤琉唯　組、　山田洸乃・鈴木文也　組

〔１年女子ベスト 32〕

尾畑水葵・馬淵百佳　組

〔２年男子シングルス　ベスト 16〕

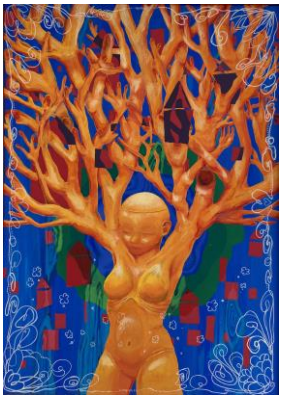
太田波瑠斗、山田洸乃

あと一回勝てば県大会出場でした。以上で今年度の公式戦が終わりました。次のシーズンに向けて頑張りたいと思います。

〔美術部〕　**第 70 回　静岡県高等学校美術・工芸　第 53 回西部展が開催されました。**

10 月 12 日（水）から 10 月 16 日（日）クリエート浜松３階、31、32 ギャラリーにて、西部展が開催され約 297 点の作品が展示されました。入場者数は全日程５日間で 1500 人を超え、コロナ前と変わらない来観者数となりました。展覧会の出品者数も 500 点以上となり、例年と比較しても勝るとも劣らない作品群となりました。

高校生の若い感性で制作された作品からは、鋭く、力強いエネルギーが感じられ、来館者からも様々なご意見をいただきました。本校からは 10 点が出品され、2111 桐生　こはる、2414 沢口　綺香、1216 千頭和　芭留奈が入選しました。



天竜高等学校　TEL　053-925-3139